

ワースト2位、村の悲惨な現実

昨年10月末、飲酒運転検挙率が県内ワースト(悪い方から)1位になった村は、その後も依然としてワースト上位。全国で重大な飲酒運転事故が相次ぐ中、さらに11月には3人が検挙されました。村の事態は深刻です。



事故は一瞬にして人生を変えます。それが飲酒での事故だったら… (久慈警察署内事故パネルより)

3人検挙に事態深刻

県内ワースト42位から、50代、60代の男性二人の検挙が相次ぎ、一気にワースト3位に転落した昨年9月。その後も10月に20代の男性1人が検挙され、村は昨年10月末でついに県内58市町村中ワースト1位という事態を招きました。

その後、村は常にワースト上位に位置し今年9月末現在でワースト2位、そして今年11月、新たに3人が検挙されたことから、またワースト1位は確実という最悪の事態になりました。深渡宏村長はこの事態を重く受け止め、「飲酒運転の撲滅を最重要課題に挙げ、広報活動、交通指導車

での巡回、情報連絡施設での呼び掛けなど、啓発活動を徹底したい」と新たに飲酒運転の防止策を行うことを掲げました。

全国で悲惨な事故が

村が不名誉記録を続ける中、全国では悪質な飲酒運転事故が相次ぎました。福岡市ではRV車が乗用

車に追突され海に転落、幼児3人が死亡。飲酒運転をした福岡市職員は業務上過失致死傷やひき逃げの疑いで逮捕され、事故後に容疑者に大量の水を飲ませ、飲酒の隠ぺいを図ったり、飲酒と知りながら同乗したとして、友人二人も逮捕されました。茨城県で起きた飲酒運転

事故では、4人が死傷。運転者はもちろん、一緒に飲んでいた同僚と酒を飲ませた飲食店の店員らが「酒酔い運転ほう助」で罪に問われた例があります。

これらは運転者だけでなく飲酒運転を暗に認めたり、積極的に進めた人も同罪であることを示しているのです。

- ワースト順位=検挙者数÷市町村の免許人口=千人当たりの検挙状況
 - 17年中の普代村は5人(検挙者)÷1,915人(免許人口)=2.61
 - 17年中の久慈市は30人(検挙者)÷23,486人(免許人口)=1.28
- 普代村は久慈市より千人当たりの検挙率が1.33高いことが分かります。